

海外フィールドワーク2023成果報告

ドイツのクラシック音楽を
見つける旅

1. テーマ設定

- ・ドイツ音楽に関心があり、音楽に関するテーマを選んだ

- ・ドイツは多くの作曲家を生み出している国なので、そんな国でクラシック音楽について知りたいと考えた

2. フィールドワーク場所

①ベルリン大聖堂 オルガンコンサート (7月7日)

②Staatsoper für Alle (7月9日)

③ベルリン楽器博物館 (7月12日、18日)

④ライプツィヒ (7月15日)

⑤シャルロッテンブルク宮殿 デイナーコンサート (7月25日)

⑥日常生活の中の音楽

2.①ベルリン大聖堂 オルガン・サマーフェスティバル



- ・夏の期間中、毎週金曜日にパイプオルガンの演奏がある
- ・天井に音が響いていて、ピブラートがとてもきれいだった

2.② Staatsoper für Alle

ウンターデンリンデン通りにある、
Bebelplatzで開催された無料の演奏会



- ・ものすごい人で、演奏している人はほとんど見えなかった
→スクリーンに映っていた
- ・観客の多くは地面（道路）に座っていた
- ・子どもから高齢者まで多くの人があった

2.③ベルリン楽器博物館



いろいろな時代・国で作られた楽器が展示してある博物館



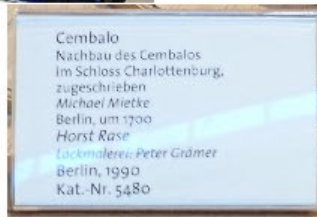
チェンバロ

ベルリン (1700年以前)



〈特徴〉

- ・ 鍵盤の色が一般的なものと逆
- ・ 鍵盤が2段ある

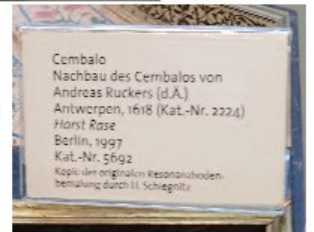


ベルリン (1618年)



〈特徴〉

- ・ 屋根の内側や鍵盤の蓋の内側に装飾が施してある
- ・ 少し幅が狭い



The Mighty Wurlitzer

ニューヨーク (1929年)



〈特徴〉

- ・ 4段の鍵盤
- ・ 3段のペダル
- ・ スイッチがたくさんあり、いろいろな楽器の音を奏でることができる
- ・ 毎週土曜日に演奏会がある

2.④ライプツィヒ

ベルリンからICEで約1時間のところにある街



←地面にある目印

これをたどっていくと、音楽に関する場所を巡ることができる

トーマス教会とバッハ博物館



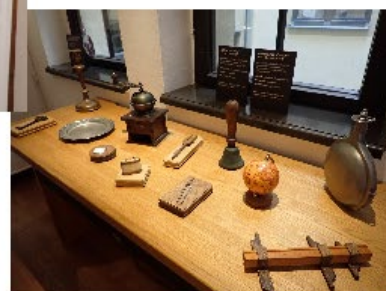
バッハが眠る、トーマス教会

少年合唱団のコンサートやオルガンの演奏がある



バッハ博物館

バッハが使っていたオルガンなどが展示してある



メンデルスゾーンの家

メンデルスゾーンが生活していた
部屋の博物館



メンデルスゾーンが演奏していた様子を再現
した部屋などがあった



2.⑤シャルロッテンブルク宮殿コンサート



- ・夜の宮殿でご飯を食べ、演奏を聴いた
- ・演奏者はカツラを被り、衣装を着ていた
- ・演奏曲はモーツァルトの“フィガロの結婚”、ハイドンのチェロ協奏曲など



2.⑥日常の中の音楽

・街中で楽器を演奏している人がいた
→ホルン・バイオリン・フルートなど

・観光地では、中世のような格好をしてフルートを演奏し、50セントと一緒に写真を撮ることができる人がいた

・観光地で歌を歌っているひとがいた
→宮殿の近くで合唱団が歌を披露していた



まとめ

○分かったこと

- ・ドイツ人は、年齢にかかわらず音楽に親しんでいる
- ・日本で有名な作家・曲はドイツでも有名であり人気だった
- ・音楽に関する博物館、演奏会が多くあった

○感想

- ・実際にドイツで音楽イベントに参加することで、現地の雰囲気を経験することができた
- ・観光旅行では、有名地をまわってしまい、ひとつのテーマに沿った場所を訪れることはあまりないため、貴重な機会となった



この発表に使用した写真は発表者とその友人が撮影したものです。